

# 総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

## 1. 研究課題名

悪性腫瘍外科的治療における術前呼吸リハビリテーションの効果の検証  
～インセンティブスパイロメトリーと吸気筋トレーニングの比較～

## 2. 研究の対象患者

2017年1月から2020年12月までの期間において、当院入院手術サポートセンターを受診し、悪性腫瘍に対する手術を実施した患者さん(又は手術予定患者さん)で以下の選択基準をすべて満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者さん

- ・ 選択基準
  - 1) 理学療法の処方がでている患者さん
  - 2) 年齢不問
  - 3) 性別不問
- ・ 除外基準
  - 1) 研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者さん

## 3. 研究の対象期間

2017年1月1日～2020年12月31日

## 4. 研究の概要

日本では、現在2人に1人が一生に一度はがんになるといわれている。現在、年間100万人近くの方が新たにがんと診断されていると推定されており、社会の高齢化に伴い、がん罹患数は今後も増え続けることが予測され、社会の関心も高まっている。

がんの治療法の一つに外科的治療があるが、手術後は、肺活量の減少、胸水による肺拡張障害、気道内分泌物の貯留、肺血管床の減少による肺うっ血などによって、換気・血流比の不均衡が助長される。さらに、侵襲による痛みなどから胸郭の可動域制限、呼吸筋障害が生じ、吸気量の制限が起こる。これらの影響や全身麻酔によって術後は呼吸機能が低下しており、肺炎・無気肺などの呼吸器合併症が発生しやすく、その予防のためにも術前後の呼吸リハビリテーションが重要となる。さらに術前の呼吸機能および運動耐容能が術後合併症の発生率と有意に関係しており、術前理学療法の重要性が再確認されている。

最新のがんのリハビリテーション診療ガイドライン(日本リハビリテーション医学会発行)によると、「肺がん患者に対して、術前にリハビリテーション治療(運動療法、呼吸リハビリテーション)を行うことを提案する(グレード2B)」とされており、術後合併症を予防するためには術前リハビリが推奨されている。

当院においても、悪性腫瘍に対して手術を受ける患者を対象に、術前より呼吸練習器を用いて呼吸リハビリテーションを実施している。以前使用していた呼吸練習器はインセンティブスパイロメトリー(incentive spirometry:以下IS)だったが、2019年より吸気筋トレーニング(inspiratory muscle training以下IMT)に変更している。IMTを併用した呼吸リハにより、呼吸機能検査において、肺活量の有意な増加及び残気量の有意な低下を認めたと報告もあるが、ISとIMTでの効果の比較の報告はない。

そこで本研究では、当院にて悪性腫瘍に対して外科的治療を受ける予定の患者において、ISとIMTの効果について後ろ向きに解析し、呼吸練習器の効果の比較、および同一呼吸練習器内での効果の比較検討を行う。

## 5. 研究実施予定期間

2020年7月22日～2022年3月31日

## 6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕:年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症、最終観察日・観察項目、入院日、手術名、手術日、診断名、リハビリ履歴、リハビリ初回介入日等

〔生理機能検査〕:呼吸機能検査、%肺活量(%VC)、1秒率(FEV1%)、肺活量(VC)、1秒量(FEV1)

〔理学療法評価〕:6分間歩行試験、最大吸気圧(Maximal inspiratory pressure:MIP)

## 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

- ・ 研究責任者： リハビリテーション科 幸保ひかり
- ・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)